

交互に掲載します

こころのページ

医療マップ

今年も3・11が巡ってくる。被災地に行ってみようと思っても、さどこを訪ねたものか。そんなとき「東北お遍路巡礼地」を知った。青森県から福島県までの63地点が、慰霊・鎮魂の旅の順路として選定されている。レンタカーを借りて、一部をたどった。

東北お遍路巡礼地

巡礼地最南端は、福島県いわき市の南部にある「勿来の記憶の広場」。ある、といっても津波被害を受けた海岸線に、防災緑地が整備中。被災住民の証言をタイムカプセルとして埋める計画が、進行中の場所だ。ポイントに近づくとつれて大型ダンブが行き交い、土ぼこりが舞う。工事中の道路や迂回路がカーナビに出ないことにその先ずと悩まされたが、何よりそのことで、被災地はまだまだ復興のまった中にあることを実感した。

被災地再訪の「理由」に

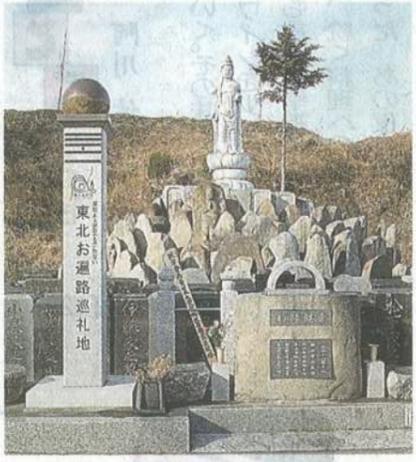
復興途上まざまざと実感

ロジエクトの発起人の一 人の新妻香織さんに会った。0カ所が目標だ。「復興予と杯を合わせている。女川町で、津波を横目に、見ながら車で逃げたという佐藤京子さん(85)と、佐藤さんが東京に一時避難していたときにボランティアで支援した渡辺晴美さん(80)。今は石巻市の復興住

いわき市では津波で水族館の展示生物が全滅した「アクアマリンパーク」、江戸時代の遺産で、東日本大震災でも被害を軽減させた「道山林」の松並木、一帯の火災にボツンと焼け残った「稲荷神社」などを巡る。国道6号沿いに北上すると広野町、楡葉町、富岡町…。大熊町の手前で「帰



事業の持続性が重要 「聖地巡礼」の著者で北海道大准教授の岡本亮輔さん(現代宗教論、聖地観光論)の話。聖地巡礼という宗教的なシステムを使って、震災の記憶を語り継ぐという試みは興味深い。神社や寺などの宗教施設から、復興事業で整備された



龍昌寺では、津波で流された地区の墓石と遺骨を収集し納骨した。「東北お遍路巡礼地」の標柱は今後、順次設置される予定。福島県新地町

宅に暮らす佐藤さんを渡辺さんが訪ね、小旅行に出たという。再会を喜び合う場に居合わせて、幸せな気持ちになった。翌日は、2人が「50年ぶり」という、巡礼地の瑞巖寺(松島町)を一緒に訪れ、そこで別れてさらに北上。途中、食事を取った気仙沼市の復興商店街「南町紫市場」は、巡礼地「紫神社」のそばにある。「3月いっぱいまで閉鎖になるので移動先を探しますが、そもそも空き店舗がなくて…」。 「どんかつ勝子」の店主の顔は曇りがちだった。 岩手県陸前高田市の「奇跡の一本松」は、被災地随一の「名所」だろう。辺り一面、見渡す限り、更地の土を重機がうなりを上げる中に立つ。完成予定図通りに周囲の施設が整ったとき、それはどんなふうに見えるのだろうか。

心の風景

とキビとキ、ゴリラ

山極寿一

昔、アフリカの山の上でゴリラのハミングを聞いたことがある。ゴリラの群れを観察していたとき、山のく、一頭の若いオスゴリラ上のほうでヨーロッパの民謡のような歌が聞こえてきたので、てっきり観光客が間違えてやってきたのだと思っ

正の上のハミング

自分も「うきうき気分」に

だと思っただけで、見知らぬ人がやってきたら驚いてパニックになるかもしれないと思っただけだ。

に伝えるためのメッセージとして発せられる場合が多い。ひとりであるとき、胸をたたくようにうきうき気分になる。自分も「うきうき気分」になる。自分も「うきうき気分」になる。自分も「うきうき気分」になる。



イラスト:ふじはらのこう

の、ひとり芝居である。ハミングも自分ひとりで気分を楽しむ行為なのだと思う。私たちが人間も、楽しいときに思わずハミングを口ずさんでしまう。それはゴリラと似ている。仲間とそ